



子育てチャンネル

ちよつと干渉、ちよつと放任、そして長所は声に出して

幼児センターでたくさんのお子さんと毎日子ども以上に楽しく遊ぶ私。家に帰ると長女(21歳)、長男(17歳)、二女(15歳)の3人の子の母です。胸を張ってお話できることは何もないので、私の子育ての失敗の数々をお話ししましょう。

長女が小さい時には、「ちゃんと育てなくてはいけません」と肩に力が入って厳しく接していたな、と思い出されます。もしかすると褒める言葉も少なかったかもしれせん。そのせいか、母親の顔をうかがって自分の気持ちを素直に言えない子になっていました。8歳の誕生日に祖母が洋服を買ってくれるというので、一緒にデパートに行きました。「ちよつと高くてもいいから好きなものを選んでいいよ」と言うので、母の好みの清楚な洋服が並んでいるコーナーに行き、「これはどう?」「こっちは?」と選ばせようとした。

しかし娘は「うーん、うーん」と乗り気でない返事。祖母が「お母さん、ちよつとひとりごちがらぶらしておいで。ばあちゃんを選ぼうか」と声を掛け、私はその場を離れることになりました。

しばらくして買い物済ませた娘に会つと、晴れやかな顔。買い物袋の中を見ると、これまでに着たことのないようなフリルとにぎやかな柄のスカート2着。欲しかったのに、親に「欲しい」と言えない子にしてしまったことにショックでした。そしてスカート2着にも合うブリブリのかわいいブラウスを持っていません。できれば上と下にしてもらいたかった。(後ほどスカートに合うTシャツを買う羽目になりました)



二人目は、というと、一粒種の男の子。期待も高まります。「やればできる子!」(裏を返せば「やっていない子」と言っている)、「もっと頑張れ!」(精いっぱい頑張っているのに?)と、良かれと思つて傷つける励ましをしていました。

三人目はちよつと干渉、ちよつと放任。

仕事から特別支援の勉強会に参加するところが多いのですが、「この講演、もう5年早く聞いていれば、自分の子にもう少しま

しな関わりが出来たかも...」と思います。

子どもたちが小さいころ、参観日で「お子さんの良いところを一つ教えてください」というのがよくありました。親ばかりかだと思われたくない気持ちも働き、言葉を選んで4割引きくらいで発言していま

した。原価割れですかね。

今は1年に一度くらい頭の中で長所を思い浮かべます。頭の中だけなので恥ずかしくありません。4割増しといきましようか。真面目、やさしい、ポジティブ、ユニーク、ノリが良い、適当...など(あとは秘密)。長所の内容は時とともに変化していますが、小さい時には短所と思つたところが、もしかすると長所なのかも...と親の私の見方も変化しています。

頭に浮かんだ長所は、時々声に出して本人に伝えます。こんないいところがある、と自覚してもらいます。自分が大切な人間だと自覚してほしいのです。

人生80年、子供と暮らせるのは、たったの20年間前後かも。残り数年だと思つと、その時間が愛おしいです。

幼児センター保育士

母野 真由美